

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	令和 2 年度 中野市多目的森林公園再整備事業 (遊歩道整備)
事業費		408,020 円 (うち支援金: 272,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

市民の憩いの場となる森林空間整備が求められている。現在、市内にも憩いの空間となる森林空間があるが、近年、森林空間の整備不足が近隣住民から指摘されており、再整備を行う必要性が生じている。

(2) 本事業の目的

林内遊歩道の適正管理を実施することにより、間山温泉公園森林内の遊歩道を保全し、市民の憩いの空間を保つ。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 建応の森・ぼんぼこ杉の森遊歩道

(2) 対象者 建応の森・ぼんぼこ杉の森利用者

(3) 実施方法 遊歩道の草刈等による整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 2 年～令和 4 年度)

令和 3 年度以降は引き続き多目的森林公園再整備事業を実施予定

(森林公園内歩道橋修繕、林内車道不陸修繕等)

②令和 2 年度計画(実績)

木製ステップ等の修繕、緩衝帯整備

作業前



作業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

本事業を実施することで、森林空間内の遊歩道の利用にあたっての機能性を高めることができ、地域住民等がより安全かつ快適に森林空間に触れ合うことができる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

今年度、遊歩道の木製ステップ等の整備を実施した後、引き続き、森林公園内歩道橋修繕や、林内社内不陸補修等、さらなる整備を予定している。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

遊歩道の木製ステップ等の整備を行うことで、より機能性を増し、かつ美しく整備された森林空間内の遊歩道等を市民等に提供できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林空間の遊歩道周辺の草刈及び遊歩道修繕等を実施したことにより、間山温泉公園森林内の遊歩道を保全することができた。

(2) 課題

間山温泉公園森林内に整備が必要な遊歩道は存在することから、今後も施業を行うことが望ましい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

間山温泉公園森林内の木製ステップの修繕及び森林公園内歩道橋修繕を予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	令和 2 年度 中野市里山整備事業 (緩衝帯整備)
事業費		755,700 円 (うち支援金: 752,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

戦後に植林された人工林の多くが間伐期を迎えている。森林所有者は木材価格の低迷により、森林経営に対する意欲が低く里山の手入れが行われていない。そのため野生鳥獣が潜みやすい藪が繁茂しており、容易に里山近隣に出没する環境となることで農林被害が増加している。

(2) 本事業の目的

里山の森林整備 (緩衝帯整備等) を実施することにより、野生鳥獣が容易に人里に出没できないように森林環境を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 桜沢地区の林縁
- (2) 対象者 桜沢地区の住民
- (3) 実施方法 緩衝帯整備のための除伐
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 2～令和 4 年度)

令和 3 年度以降は引き続き多目的森林公園再整備事業及び緩衝帯整備事業を実施予定

②令和 2 年度実績

除伐 1.98ha

作業前



作業後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備を実施し、野生鳥獣が潜む箇所が無くなり、人里に近づきにくくすることができる。野生鳥獣による人的被害を防止し、安全な地域づくりを図る。

(2) 継続性

引き続き、緩衝帯整備や森林公園内歩道橋修繕や、さらなる整備を予定している。

(3) 普及性

野生鳥獣が出没しにくい里山環境を作ることで森林施業を軽減し、農作物被害を減少させる。また、野生鳥獣による人的被害から住民を守ることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

荒廃している里山の茂みを取り払うことにより、見通しのきく緩衝帯ができた。

(2) 課題

放置すれば数年で元の茂みに戻ってしまうことから、今後も定期的に施業を行えることが望ましい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和3年は森林公園内歩道橋修繕を予定。